レッスン:SPA NO.61

テーマ：意味/バイブレーション

SPA 61/KE9/00/M9

私の姉妹・兄弟たち、スピリット、光、火の子供達よ。私たちは常に主、絶対、主の聖性に抱かれています。

前のレッスンで、現れが表現される手段（それはマインドですが）に関する様々なバイブレーションについて述べました。創造界にはスーパーサブスタンス、サブスタンス、そして超物質というマインドがあります。勿論、私たちは今物質のバイブレーションのなかにあり、物質界があります；しかし、そこには他のバイブレーションはないのでしょうか？あります。超物質、サブスタンス、そしてスーパーサブスタンスさえも同時にありますが、現在のパーソナリティーは物質だけに親しんでいます。

今現在のパーソナリティーと言うとき、無知のなかにいる現在のパーソナリティー、制限ある現れのなかにいる現在のパーソナリティーを意味します。言い換えれば、大部分の人々は現在のパーソナリティーを肉体であると考えています。しかし、それは真実ではありません。肉体は、この現れのバイブレーションのなかで、物質界で自らを現すために現在のパーソナリティーが使用しているものです。

それでは現在のパーソナリティーはマインドのどのバイブレーションを使用しているのでしょうか？（＊肉体ではない実際の）現在のパーソナリティーは超物質。サブスタンス、そしてスーパーサブスタンスさえも使用しています。さて、使用と言いましたが、マインドのそれらのバイブレーションは実存の諸世界で現在のパーソナリティーが自らを現す手段です。なぜなら実存の諸世界は物質界のバイブレーションだけでなく、サイキカル界とノエティカル界のバイブレーションも含まれます。そして多くのレッスンで述べたように七つの層があり、各層には７つの亜層があります。つまり49のサイキカルのバイブレーション、そして49のノエティカルのバイブレーションがあります。しかしサイキカルとノエティカルを分けることはしないので、49のサイコノエティカル界があることになります。

さて、現在のパーソナリティーは手段つまりマインドという手段を使用し、自らの気づきのレベルに応じ、これらの諸世界において自分というものを現しています。さて、現れのレベル、言い換えればその現在のパーソナリティーがどのサイコノエティカル界で自らを現しているか、それはその現れのために使用している手段の形によります。ですから、手段、つまりマインドのバイブレーションで作られているその体が、そのパーソナリティーがサイコノエティカル界のどの層で自分を現しているかを特定することになります。

ですから、　現れとしての、思考・行動の仕方としてのそのパーソナリティーはサイコノエティカル体以外の何ものでもありません。その体が創造の元型にマッチするようどれほど再形成されているかは別問題です。つまり、それは現在のパーソナリティーの経験次第だからです；言い換えれば、不定形の体の再形成です。まず、それは絶対的に自分の気づき、バイブレーション（私たちが表現するマインドのバイブレーション、そしてまた現れのバイブレーション）の向上に向けてパーソナリティーが行う経験、ワーク次第です。

まず最初に生(Life)のバイブレーションがあります。創造界の現れとしての生のバイブレーションです。そこでは魂のセルフ・エピグノシス、およびそれらの魂のバイブレーションは完全に絶対のバイブレーションとマッチしています。唯一の違いは、魂(Soul)はスピリット・セルフ（スピリットであるセルフ）からの微細なスパークであり、勿論そのスピリットは決してアウタルキーを去ったことはありません。そしてスピリットは絶対存在の多重性・多様性のなかにあり、常にそこにいます；スピリットは決して神の黙想の動きのなかに入ることはありません；神の黙想の動きのなかに入るのはスピリットの微細なスパークのみです；そして諸宇宙の現れおよび創造としての動き、活動があるのです。

Page2

ですから生の本質、つまり最内奥の本質としての特質を完全に現している魂のバイブレーションがあります。後になって諸宇宙を築くために使用された手段があります。そしてその手段がマインドであり、それはスーパーサブスタンスのバイブレーションです。これはマインドの海ですが、マインドは活性化されねばなりません。マインドはそれ自体では立つことができません。ですから生の海があり、この生の海は汎宇宙的キリストロゴスであり、それがマインドを活性化します。そして全ては神の黙想の動きのステートのなかにあります；つまり創造界における現れです。

海のバイブレーションについてはどうでしょうか？海のバイブレーションは絶対存在のバイブレーションと全く同じです。実際それは現れのなかにおける絶対存在なのです。そこにおけるマインドの役割は何でしょうか、生が完全に現されている世界におけるマインドの役割とは？何もありません。マインドの役割は“未来”にあります。つまりマインドが形を帯び、諸宇宙が存在するようになる時です。そこにおいてマインドは元型、イデア、原因という法則としてあります；なぜなら、まず現れは存在の諸世界に生じ、そこでは全ては全てのなかにあり、現れているものに境界はないからです。

ですから、現れのバイブレーションがあり、最後に現在のパーソナリティーがあります。今ある現在のパーソナリティーであり、最初はサブスタンスのバイブレーションのなかです。なぜなら生は初めからスーパーサブスタンスのなかにあるからです。つまりスーパーサブスタンスは初めからあるのです。ですから現在のパーソナリティーにサブスタンスのバイブレーションが加えられ、つぎに超物質、そして最後に物質のバイブレーションです；そしてその時初めて実存の諸世界における生の現れである現在のパーソナリティーは限界、制限ある現れのなかに入るのです。

つまり、意識が限界のある現れのなかに入り、その瞬間から現在のパーソナリティーはコミュニケーションのために制限のなかにある五感を使うようになります。それらの制限とは何であり、コミュニケートするためにそれらの五感によって何が使用されるのでしょう？言葉です。私たちは言葉を使用し、交流するために言葉（交流のための純粋な手段）を使います。私たちは同じ言語を使用しなければコミュニケートすることができず、また現れのバイブレーションが異なるとコミュニケートすることができません；多くの人々は知的な人々、異なった興味を抱いている人を理解することができません。何故でしょうか？気づきのレベルが異なるからです。そして前に説明したように、気づきのレベルが異なるのは経験の結果です；２回しか転生していない人もいれば、10回、20回、100回、1000回、あるいはそれ以上転生している人もいます。

ですから、物質界においてコミュニケートするためには言語が必要です。しかし、コミュニケーションにおける壁は言語だけではありません。気づきのレベル、人々が示す興味、バイブレーションまたは周波数の違いも壁となります。

一つの言語においても多くの方言があります。現象的には人々が同じ言語を話していても、ある方言で話していると別の人は何を伝えようとしているのか理解できないこともあります。何を伝えるのでしょうか？意味です。そうです、現在のパーソナリティーがコミュニケートするためには、その人の存在を理解するためですら、二元性の結果として意味を作る必要があるのです。

それはどのようにして行われるのでしょうか？どのようになされるのでしょうか？どのようにして何かを理解するのでしょうか？対象を見て、他のものと比較します。そして勿論、二元性は思考と呼ばれる聖なる贈り物を現在のパーソナリティーに提供します。思考は二元性の結果であり；思考とは問いと答えが同時にあること以外の何ものでもありません。ですからコミュニケートするためには他の人に意味を伝える必要があります。その人が理解できる意味であり、勿論その反対もあります。意味とはまた創造物でもあります。何であれ私たちが現すものはバイブレーションであり、それらのバイブレーションは即座に何かを創造します。ですから私たちは何かを現し、同時に創造するのです。

さて、もし二元性が停止すると“植物”状態になった現在のパーソナリティーという現象が生じます。そのパーソナリティーからは思考という形態が生じず、植物と全く同じです。言い換えれば、もはや思考が表現されないということです。バイブレーション、意味というバイブレーションがあり、それを通じて生が表現されます。しかし同時に、この神の黙想の動きのなかには現れのバイブレーションもあります。なぜなら、生は様々な異なった現れのレベルで表現されるからです。段階？言い換えれば、現れの制限とも言えます。なぜ？なぜなら、聖なる神の仕事が行われるためには、この神の黙想の動きのなかにある全てには理由があるからです。人間が限界ある現れのなかに入ることですら、その理由とは不動の法則によって人間にその能力が与えられるからです。それは現在のパーソナリティーとしての人間の素質的可能性のサイクルによって与えられます。それもバイブレーションです。

Page3

五感について話しましたが、私たちには五つの超感覚もあり、それこそが現在のパーソナリティーの真の感覚であり、それは現在のパーソナリティーによって、サイコノエティカル体によって使われます。しかし、現在のパーソナリティーが肉体のなかにいる間は意識的にそれを使うことはありません…無意識的には常にそれを使用していますが。つまりファンタジー、記憶などとして。現在のパーソナリティーが啓発へと近づくにつれて、超感覚はより意識的に使われるようになります。

さて、五感を使用している間は、コミュニケーションの手段は言葉、特定の言語の使用を通じて行われます。しかし、真の感覚を使用するときにはコミュニケーションはバイブレーションを通じて行われ、それはあらゆる言語において同じ意味を伝えます；なぜなら、様々な言語において与えられる意味は、様々な言語を話す人々によって認識されるからです。あなた方は五感を通じて同じ言語を使用してコミュニケートしています。

しかし、五つの真の感覚を使用する時、異なった言語間のコミュニケーションが制限されることはありません。その理由は、意味を生み出すバイブレーションが解釈され、同じ言語が話されているというイリュージョンを与え、従って同じ意味が理解されるからです。

ですから、現在のパーソナリティーがコミュニケートするために五つの真の感覚、バイブレーションを使用するとき、そこには制限、障壁はありません；ですから言語、言葉はバイブレーションを生み出し、意味を創造するのです。

されでは色については、音についてはどうでしょうか？特定の色が意味を与え、特定の音、サウンドが意味をもたらすでしょうか？答えはイエスです。そうです、音や色を通じてコミュニケートすることができます。しかし気づきのレベルが異なるために、コミュニケーションする上で困難が生じます。

誰でも自分にとって理解し、受け入れられるものを好みます。言い換えれば、その人の現れのバイブレーションの範囲内にあるものを好むということです。人によって周波数は異なるかもしれません。なぜなら各人にはその人固有の周波数があるからです。二人の人が同じ周波数のなかにいるとは言えません。

そうです、彼らは同じバイブレーション、同じようなバイブレーションの範囲内にあるかもしれません。ですからコミュニケーションの手段である色、音。それらは意味を創造し、人々が五感を使用しようと五つの超感覚を使用しようとも（勿論完全にではなく、ある程度までですが）その人々にとっての意味があります。

それではあるレベルの気づきに到達した人においてもどうでしょうか？自己実現に到達する前でも、現在のパーソナリティーの素質的可能性の四番目のレベルの近くまでマスターしている人。そのような人々はこのような（＊音や色）コミュニケーション手段を使用し、全ての人々に同じ意味を持つような意味を現すことができるでしょうか？答えはイエスです。

ある種の音楽は誰にも同じものを訴えかけ、ある種の絵画も全ての人に全く同じことを訴えます。これが同調に至るすぐ前のステートです。現在のパーソナリティーが五感、そして思考さえも背後に残して進むようになるすぐ前のステートです。なぜなら、現在のパーソナリティーがコミュニケートするために同調という手段を使うようになると、もはや思考を現すことはなくなるからです。それは不必要になり、思考という贈り物を現在のパーソナリティーはもはや使用しなくなります。

ですから、現在のパーソナリティーが五つの超感覚を背後に残して進むようになるちょっと前に、全体に惑星において人はコミュニケーションの手段として色と音を使用するようになります。なぜこの種の手段を使うのでしょうか？なぜなら、それは言葉よりずっと速いからです。ですから、バイブレーションがあります、手段に関して、そして現れに関しての様々なバイブレーションがあります。

ある人が自分がいるところのバイブレーションを理解できないと、集中しようとして疲れてしまいます。顔は赤くなります。なぜなら、努力することによって多量の血液が頭に集まるからです。頭を働かせることによって、似たようなエネルギーが通過し、それを通じて表現されるようにです。勿論、このステートにおいて最後には現在のパーソナリティーが疲労として現れるようになり、さらには眠くなり始めます。そして最終的には、それが継続すると眠ってしまいます；これは脳を守るために生じるのです。脳が努力によって焼かれないためにです。

Page4

ですから、何であれバイブレーションが私たちに伝えるものについて理解しました；伝える、コミュニケーションと言うとき、それはそれらが私たちに訴えかける時、それらは私たちが理解できる意味を生じさせます。もし私たちが理解できない意味を生じさせると、私たちは拒絶します。そうです、人は全体として今地球上において、誰をも全く同じように理解するようなポイントに到達することでしょう…作曲家が何を表面に浮上させようと望んだにせよ。なぜなら、それら多くの作曲家は自分たちのフィーリングを楽譜に表そうとしたからです。あなたが自分のフィーリングを、意味、バイブレーションを現そうとするとき、あなたはそれをどのように翻訳しますか？ですから、作曲家が楽譜に現したもの、その意味を誰もが理解できるようになるでしょう。あなたが自己実現のすぐ直前、まだ五つの超感覚を使用している時にですが。

私たちが五つの超感覚を背後にすると、自動的に現在のパーソナリティーは同調を使うようになります。勿論、現在のパーソナリティーがそのステートに到達すると、その人はそのステートには留まらず、人々を助けるために自分のバイブレーションを下げるのですが。

質問：ある惑星上の人々の誰もがバイブレーションを通じて同じものを理解するようなポイントに到達すると、それは惑星全体が一つの単体として多様性・多重性の能力と共に進むということでしょうか？

Ｋ：最初は誰もが全く同じに見えるでしょう。醜くなるとか美しくなるとかではありません。美しくてもそうでなくても、私たちは鏡のなかの自分の姿に魅惑されることがなくなります。私たちは元型としての美を現すようになるのです。

勿論、前に説明したように、現在私たちが持っている特徴は経験の結果としてあるものですが、それすらもなくなります。私たちは皆全く同じように見え、私たち全員がアークエンジェルの形を帯びるようになるのです。私たち人類は同時にアークエンジェルなのです。惑星全体が必ずしも同じ仕事をするようになるわけではありませんが。

同時に、自己実現に到達すると、あるいはその前であっても、人は多様性・多重性の能力を現すようになります。それは生の重要な特質の一つです。その時、あなたは同時に沢山の“場所”に現れることが可能となり、また同時に最小のなかにも最大のなかにも存在することができるようになります。

質問：意味というのは極性の結果なのでしょうか…。

Ｋ：…もちろんです。もし比較することがなければ、意味を作り出すこともありません。もし観察し、比較しなければ、意味は生じず、思考の動きもありません。それについて考えてください。

Ｋ：何故でしょうか？なぜなら、私たちがコミュニケートするのは意味を通じてだからです。意味です。私たちは話すことによって意味、エレメンタルを作り出します；エレメンタルとは何でしょうか？それらは意味を生み出します。あなたが何かを見ると、直ちにあなたの前に意味があります。さもなければ、あなたは目の前にあるものを理解できないでしょう。それをどのように理解しますか？前に述べたように、何か他のものと比較することによってです。

もし光で一杯の部屋で赤ん坊が生まれるとします。もしその赤ん坊を10歳になるまでずっとその明るい部屋のなかにおいておくとします。そしてその子供に光とは何かと質問しても、その子供は光とは何かを答えられないでしょう。なぜならその子供には光と比較する暗闇という意味がないからです。そのようになるのです。それゆえに私たちはここにいるのです、これら全てを経験し、個人性を現すためにです。さもないと、私たちは違いを“把握”することができないでしょう。これはアウタルキーのなかの“自己実現したモナド” の役割となります；後には、神の黙想という動きに奉仕できるようになるでしょう。なぜなら、それは今や自己実現したモナドとなるからです。“より良く”奉仕できるようになるでしょう。なぜなら、その人がこのプロセスを経験したからです。

質問：作曲家はどのようにして仕事をするのですか？

Page5

Ｋ：作曲家は作曲するためには、自分自身を現すためには特定のレベルのバイブレーション、特定のステートに到達する必要があります；しかし、それは彼らの現れの真のレベルの結果という意味ではありません。音楽であれ絵画であれ過去の傑作を生み出した人々のなかには日常生活においてアンバランスなパーソナリティーだった人もいます。しかし、楽譜に書いたり、絵を描くためにひとたび座ると、彼らは別のセルフを現すのです。どのセルフでしょうか？彼らの内側から放射される何かです、彼ら自身がその現れのマスターなのではありません；それはただ彼らの内側から流れて来るだけです。もしあなた方がそれらの作曲家たちについて調べるなら、彼らの多くは日常生活においては（＊曲自体とは）完全に違っていることがわかるでしょう。違っているというその意味は、つまり彼らの日常生活は彼らが作曲したものとマッチしないということです。それが音楽であろうと絵画であろうと、その作品の周波数と実際の彼らがマッチしないということです。

現在のパーソナリティーは現れです。たとえそれが現象としてであってもそれは問題ではありません。しかし最初に現象を活性化するのは生のスパークです。そしてその現れは常に、聖なる母という生の主な特質を通じて表現されるのです。生は創造ではなく現れです。母親とはアークエンジェルがそこで肉体を築こうとして働いている実験室のようなものです。肉体は創造物であり、アークエンジェルが築いたものです。言い換えれば、肉体は聖霊的なものですが、現在のパーソナリティーとしての現れは聖霊的なものではありません。それはロゴス的なものです。ですから、私たちにはロゴス的現れとしての誕生と現れがあり、それは常に聖なる母を通じて表現されるのです。生は現されるものであり、築かれるものではありません。生とは創造ではありません。女性が出産すると、実際にはその現れを誕生させるのは聖なる母であり、女性は聖霊的仕事の手段となるだけです。そして生が表現されるのです。

前に述べたように、気づきの向上に向けてのワークは最も安全な道であり、それはより良いセルフを現す道であり、その結果私たちは同胞に人間たちに対してより役立つ存在となります。確かに能力とパワーの現れは徐々にゆっくりですが、それらの能力は生それ自体の特質がより多く現れる結果なのです。なぜなら生はその中に全てがあり、魔術が与えることができるものよりずっと多くのものがあるからです。魔術とは何でしょうか？生と比較した場合、魔術とは何でしょうか？生とは？生はどんな能力やパワーでも与えることができる、と言いましょう。

魔術は、何であれ素質的可能性のあるサイクルの中で法則が提供できるものを誤用することによって提供することができるのです。なぜなら私たちはバランスの世界、無知の結果としてのバランスの世界におり、調和をバランスへと変えたのは無知だからです。ですから、バランスを維持するためには、片方に何かがあれば他方にも何かがなければなりません。善と悪、暑と寒、それはバランスであり意味でもあります。なぜなら、これら全ては意味だからです。

EREVNA/SPA61/KE9/M9